公益財団法人SAJ

SAJ Farm 通信

vol.10 2011年5月号

公益財団法人
School Aid Japan
〒144－0043
東京都大田区羽田 1-1-3
TEL：03-5737-2773
FAX：03-5737-2793
http://www.schoolaidjapan.or.jp
sajinfo@schoolaidjapan.or.jp

～生まれ変わる農場のために～

4 月中旬、カンボジアはお正月を迎えました。プノンペン市内に住む多くの人たちは地方に住む家族の元へ帰り、そのため農場近くの地方の市場はいつも以上に多くの人で賑わっていたようです。

さて、私達の農場ですが、3 月上旬に始まった造成の作業が業者様によって進められている最中です。改めてご紹介すると次のようなことを行っています。

1. 池の施工（縦横の寸法はそれぞれ違いますが、深さ 5 メートルの池を 3 箇所掘っています。）
2. 水田や畑、家や家畜舎の建設場所の造成（畝を作り、平らにならしたり、土を盛って建物を建てられるようにしています。）
3. 作業用道路の造成（池から出る大量の土を使ってトラクターや車の走れるような道を作っています。）
4. 井戸を掘ってくれる業者様を探し、見積もりの依頼と交渉
5. デモ区に建設する住居、家畜舎のための建築業者様を探し、見積もりの依頼と交渉

50m×20m×深さ 5m の池。農場に作られる池の内で一番

道によって区画が分けられた農場。

1 番から 3 番までは業者様によって土曜日、日曜日に関係なく毎日行われています。それに伴い、私達も毎日時間をかけて状況確認をし、間違っていたり、上手くいっていないことに関してはすぐに現場監督や社長に修正や原因となっていることをつきとめるようにしています。

4、5 番に関しては、学校建設でお世話になっている業者様に問合わせたり、自分達で地元の人たちから情報を集め、できるだけ多くの業者様と話をするようにしています。

しかしながら問題は起こるものです。予測できていなかったことはもちろんですが、予想していてもやってみなければわからないことも多いのです。問題となっていることは次のようなことです。

1. 池から出る大量の土の置き場がなくなってしまったこと（道路のために盛ったり、建設予定地に建物の土台として使っても余ってしまうのです）
2. 均一に水を張れるような水田作り（均一に水を張るという発想が業者様になく、理解してもらうのに苦労しています）
3. 井戸が完成していないこと（当初、造成の業者様の委託業者様によって井戸を掘ってもらう予定でしたが、事前の詰めが足りなかったこともあり失敗に終わったままでいるため、絶対に必要となる井戸をできるだけ早く確実に作らなければなりません）。

問題は残っていますが、現状としては下記のような状態になりました。

1. カンボジアのお正月前までに 3 つ予定している池の内の 2 つ目までを掘り終えました。
2. デモ区内にある作業用通路、水田のための畝、家や家畜舎のための土盛りが終わりました。
3. 井戸や建設に関わる業者様とも 1 度話し合いをすることができ、詳しいことをカンボジア正月の後に聞くことになっています。
4. 未だしっかりとした水平は取れていませんが、デモ区の水田では 7 月の田植えに向けて床締め（地表から深いところに硬盤を作り水の抜けにくい状態にする）を行っています。

池は、実際に掘り終えてみると 1 つ 1 つが非常に大きなものです。デモ区の池には、少しずつ水が貯まりつつあります。

農場の造成が進む中、その傍らで作物も育てているわけなのですが、こちらも小規模ながら、徐々に作物の数を増やし観察を続けています。育てているのはナス、トマト、トウガラシ、カボチャ、オクラ、キャベツです。

数ヶ月前に問題であったことも今では少しずつではありますが、解決できるようになって来ました。例えば発芽に関してです。やはり床土は大きな要因のひとつです。水が程よく保たれ、それでいて余分な水分は抜けてしまうような土を作ることが大切です。砂ではそのようにいかないことから落ち葉にコメヌカや鶏糞などを加え十分に分解されたものを使っています。そしてモミガラを墨にしたもの（クンタン）を添加しました。さらに市場で売られている育苗用ポットの排水の穴を大きくし理想に近づくようにしています。

ナスを収穫した。まだ問題は多いが、まずは収穫できたことを喜びたい。

種の品質に関しても注意を払っていなければなりません。日本で手に入るような発芽を容易にさせるための処理等はされていないうえ、保存場所として湿度が少なく涼しい場所を確保することが難しいからです。必要量だけを購入し早く播ききってしまうことが一番なのでしょう。

今収穫できるのはナスのみです。トマトやトウガラシなどは定植をしたばかりなので、収穫できるのは数ヶ月先のことになります。

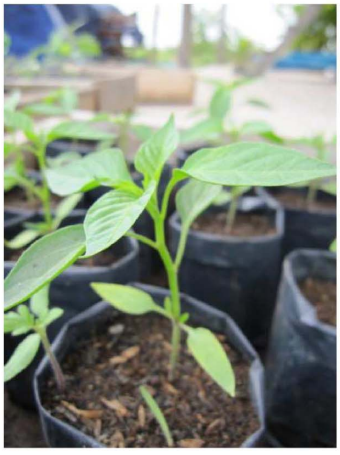
ここでどうしても問題となるのが、乾季のこの時期はどうしても水が足りなくなるということです。時には SAJFarm 管理人の家族の分でさえも足りなくなってしまうので、近くの池に水を汲みに行き、それを潅水して育てています。とにかく今は水の確保が最優先となっていますので当分の間は水を汲んでくるということをしなければなりません。そのようなことからも、今作っている池や井戸は本当に重要なものであることが良くわかります。

潅水を続けることでようやく実をつけたカボチャ

実は、もう 1 つ改善できていないことがあります。それは作物を襲う害虫に対しての策を見出せていないことです。私達は稲も野菜も果樹も全て有機栽培によって育てることを決めています。農薬は使いません。そのため害虫によって 1 度犯されてしまうとその被害をとめることが難しいのが現状なのです。害虫によって困ることは大きく 2 つあります。

1. 作物そのものを食害し、生育を妨げる、もしくは収穫できない状態になってしまう。
2. 害虫が媒体になって作物に病気を持ち込む。

今まで育てた作物では、サツマイモやマメ類、スイカが 1 番の被害にあいました。今育てているキャベツなども大きな被害の対象になるかもしれません。2 番目にはキュウリが被害にあっています。病気が作物内で悪さをし、成長点や葉が萎縮してしまうのです。トウガラシもその被害にあいつつあります。悪さをしているのは日本でもよく見るアブラムシです。



問題のないように見えるトウガラシの苗だが、葉の裏側には無数のアブラムシが付いてしまっている。

このようなことを回避するのに育苗という作業が大事なことになります。人間で例えるならば、子どもが風邪や他の病気にならないように食べ物や環境に工夫をしたり、注意を払ったりしていることと同じなのです。

それができるようになったならば次は畑の改善が必要です。今は砂のような土ですが、有機物を多く含み定植後に直ぐに適応できるような土を作ることが大切となります。

今は有機物を投下するために鶏糞をはじめ肥料にするためのたくさんの資材を購入している状態ですが、私達の農場からお米が取れるようになればコメヌカやモミガラが手に入るようになります。鶏舎や豚舎が建てられれば、堆肥に関しては解消されるのです。池や井戸があるおかげで、農場は 1 年中緑に覆われます。それによって作物や家畜の自給が可能となり、そしてそこから出る副産物によって農場が豊かになっていくのです。豊かになった水田や畑からは、再びたくさんの作物や飼料用の作物を収穫することができます。そしてそれはまた循環していくのです。

私達の農場は、今はまだ灰色ですし殺風景ですが、7 月の田植えに向けて、そして近い将来たくさんの作物とそれを喜ぶ人たちの笑顔に満ちた農場になるために造成という工程を経て、今、生まれ変わろうとしています。

編集後記

今行われている造成は、瞬きをする間に農場の姿を変えて行きます。こうしてＦａｒｍ通信を通してご紹介させていただくわけですが、お伝えできることはどうしても限られてしまいます。未だ農場としては機能していませんがＳＡＪのツアーなどをご利用いただき、ぜひ一度ご来場いただけたらと思います。

（飯島）